

『高等学校情報への道草：総集編』

東北学院中学高等学校 井口 巖

iguchi@jhs.tohoku-gakuin.ac.jp

[1] 実践の概要

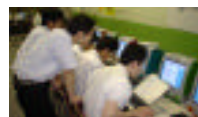
D-project総決起集会において、高校2年生に『やってみよう情報ABC』、高校3年生に『わくわくどきどきCM』の二つの試みを計画した。『やってみよう情報ABC』では週二単位で「高校教科情報」を意識して、自分で調べ・まとめ、レポート・プレゼン・Webの教材作成を通して報告する」授業を実施することを目標にした。『わくわくどきどきCM』では週一単位で、情報の実習として「インターネット上に公開できる内容で、自分のイメージキャラクターや自分自身についてをの表現し、大判ポスターや携帯Webなど色々な形を変えて表現することを目標とした」この二つの試みについて総集編を報告する。



[2] 高校2年：『やってみよう情報ABC』3つの挑戦

(1) 情報の教科書ダイジェスト作成

教師が教科書を中心に展開する授業ではなく、生徒が自分でテキストを読み、まとめる学習を展開できたらいいと考えていました。ちょっとムリをして挑戦してみました。6人で1グループをつくり、責任者、分担を話し合いで決定し、教科書を読みそのダイジェスト版をワードプロソフトで作るというチャレンジです。できたダイジェストをグループごとに交換し、質問をしあう、というおまけまでやりました。



(2) ある単元のプレゼンテーション競技会

ダイジェスト版作成により既に必要なテキストができていることから、6つの項目を選び、グループを3人組としてパワーポイントを使い、プレゼンテーション競技会を月末と11月末の2回実施しました。項目が7つでグループが12組ですので同じテーマで発表し、どちらの発表がわかりやすかったかを判定するというものです。三人が発表者操作者、補助などの役割を受け持ち実施しました。2回戦実施したのは、負けた組が対戦相手や他の組の良い点を学び、敗者復活できるチャンスを残したかったからです。



(3) 教科情報のクイズを作ろう

授業内容を一番良く理解する方法は、自分で試験問題をつくってみることではないだろうか、感じていました。そこで、今回の最後の挑戦は、生徒一人ひとりに演習問題を作らせようと考えていました。しかし、実際にWebで公開できる教材を作成するとなると負荷がたかく授業のなかで実際に展開することが難しかった。そこで今回は、桑原昭男氏作のフリーソフト「ごたく」を使用して、情報の五者選択クイズを作成させました。まだ完全に整理がついてないので、詳しい分析はできませんが、テキストデータとして、問題文、正解、誤答（4種類）を作成するために、再度教科書を読み直したりと、自主的な情報の学習につながったと考えられます。

(4) 1年間の授業を通してのまとめ

情報の授業を教師が教えるのではなく、『生徒に自ら調べ・まとめ・発表しさらに相手に伝わったかどうかを確認する体験をベースに』情報を教えたいという、私の願いはある程度実現できたと考えています。細かい点ではまだまだ改善の余地があります。例えば、教科書ダイジェストは、単元ごとに実施し、教師の知識も加えていく方が良いと思えますし。プレゼンテーションは対抗戦にすることにより、自分のよいところ、相手の良かったところを素直にみつけれましたが、対抗戦に時間がかかるので、簡易な対戦方法にする。教材はつくるだけでなく、生徒に使用させて問題点をしてきさせるなどいろいろなことが考えられます。皆様のご意見もお聞かせください。

[3] 高校3年：『わくわくどきどきCM』デジタル作品実習

(1) 自分のイメージマスコットを作ろう

17歳の男子高校生、皆さんはどんなイメージを持たれているでしょうか。実際はかなりシャイで、親にも教員にもその姿を見せようとはしない。そこで今の自分は何者かを考え・表現させ、二度とない青春の記録として残したいと考えました。また、

著作権やプライバシーの問題を自分自身の問題として考えるため、作品はネットワーク上に五年間公開する。公開できないようなものは作成しない事としました。授業は課題の提示、作品の模索、解説文作成、生徒同士の相互評価、保護者への公開、美術教員の評価を実施しました。五年後（彼らが社会人になるとき）、自分の作品をWeb上で見た時、十七才だった自分に残したメッセージをどの様に感じるだろうか？結果は五年後である。

(2) 大判ポスターを作ろう

前の課題で自分自身をみつめたことから、自分の存在とそれを支えている人（家族や友人等）の関係を大きなポスター（模造紙）として作成する実践を行った。まず、身近にある大きなポスターの特徴としてキャッチコピーの大切さを考えさせた。これを「殺し文句」と名付け、ポスター制作を行った。夏休みの課題として「自分と家族」というテーマで使えるような写真を探させ、夏休み後にポスター作成に入った。

前の課題でソフトウェアの使用方法はマスターしていたため、色々なテクニックを使い、写真をトリミング・コラージュして新しい作品にまとめることができた。また、模造紙大の大判ポスターは迫力があり、家のトイレの壁に貼り付けてある家庭もあるときいている。この取り組みで、新しい家庭とのつながりが生まれた。このポスターについてもインターネット上に公開することとしている。

(3) 15秒CMを作ろう

高校3年生が対象であったため、最後の課題への時間が五単位分しかとれなかったため、全員が作品を完成させることができなかった。また、機器が古いため、当初計画していた動画編集ソフトウェアではなくLIVE-MOTIONを使用してのアニメーション機能を活用してCM作成となってしまった。次回はもっと計画的に最終目標としてCM作成を位置づけ時間配分を実施したいと考えている。

[4] まとめ

昨年3月D-projectの総決起集会で授業実践前のアンケート調査で高校2年生はコンピュータの活用に自信の無い人が56%であった。（ワープロで文書を作成できる33%）この1年の授業を終えて調査したところ、ワープロに自信があると前より自信ありが68%（92名中）に増えた。高校3年は調査できなかった。

今回は、情報の授業で「教えない・デジタル作品の作成」の可能性を目標に展開しある程度の可能性が見えたと考えている。しかし、実際に情報の授業を実施する場合は、評価の問題が残っており。どのような授業であれば教科情報の授業であると言えるのか？本当に教科情報で身に付けるべき内容をどの様に調べることができるかを考える必要がある。

また、小学校の総合的な学習の時間、中学校の技術家庭科での学習との連結、大学・社会からのニーズとの間で、情報をどう展開するか、この年の挑戦では、まだ答えが出てこない。色々な立場からの皆様のご意見をお聞かせいただくと幸いです。

